

日立市内公共交通の現況整理のための調査 調査実施概要

1. 市民アンケート
2. バス利用者アンケート
3. 乗降カウント調査

1. 市民アンケート 調査方法

- アンケートでは、日常的な外出の実態、バスやタクシーの利用状況及びサービスに対するご意見、市内の公共交通に関するご意見等を確認し、市内の公共交通の課題把握や公共交通ネットワークの検討にあたっての基礎資料とする。
- 配布数は、網形成計画策定時の市民アンケートと同規模（5,000世帯、10,000票）を予定。

配布世帯数	<ul style="list-style-type: none">• 5,000世帯
配布部数	<ul style="list-style-type: none">• 10,000票（各世帯2部ずつ配布を想定）
対象者抽出方法	<ul style="list-style-type: none">• 15歳以上の市民から無作為抽出• 抽出時には地区別人口比を考慮
調査票	<ul style="list-style-type: none">• 資料3-2のとおり• 調査票には、WEB上でもアンケートに回答できるよう、QRコードを記載する。
実施時期	<ul style="list-style-type: none">• 2022年8月頃
配布・回収方法	<ul style="list-style-type: none">• 郵送による配布・回収
回収目標	<ul style="list-style-type: none">• 1,500世帯、2,500票（網形成計画策定時と同数）以上
配布物	<ul style="list-style-type: none">• 調査票（A3両面1枚）、挨拶文（A4両面1枚）、発送用封筒（角2判1枚）、• 返信用封筒（長3判1枚）

1. 市民アンケート 設問内容と狙い

設問	設問	設問の主な狙い
個人属性	問1 性別 問2 年齢 問3 居住地 問4 職業 問5 運転状況 問6 携帯電話の所有状況	<ul style="list-style-type: none"> 回答者の個人属性を把握する。 以降の設問結果とのクロス集計により、属性による外出や公共交通利用の違いや考え方の違いを分析する。
日常的な外出	問7 外出先 問8 外出頻度 問9 外出時間 問10 交通手段 ・4つの外出目的（①通勤・通学、②買物、③通院、④趣味娯楽の外出）ごとに確認	<ul style="list-style-type: none"> 4つの外出目的ごとに外出の実態を把握する。 居住地、年齢、職業、運転状況などのクロス集計により、属性ごとの移動実態を分析する。 移動実態と公共交通サービスが合致しているか分析する。
路線バスの利用と意見	問11 バス停までの徒歩時間	<ul style="list-style-type: none"> 網形成計画策定時の市民アンケート結果と比較する。
	問12 利用しているバス交通 問13 バスの利用頻度 問16 バスを利用する理由	<ul style="list-style-type: none"> 居住地、年齢、運転状況などのクロス集計により、属性ごとのバスを利用している理由を分析する。
	問14 取得するバスの情報 問15 バスの情報の取得方法	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が良く取得している情報とその取得方法を把握することで、今後の情報提供施策への参考とする
	問17 バスを利用しない（しづらい）理由	<ul style="list-style-type: none"> バス利用者が感じる利用しづらい理由を把握することで、サービス改善の参考とする。 非バス利用者がバスを利用しない理由を把握することで、新規利用者を獲得するための施策の参考とする。
タクシーの利用と意見	問18 タクシーの利用頻度 問19 タクシーを利用する理由	<ul style="list-style-type: none"> 居住地、年齢、運転状況などのクロス集計により、属性ごとのタクシーを利用している理由を分析する。
	問20 タクシーを利用しない（しづらい）理由	<ul style="list-style-type: none"> タクシー利用者が感じる利用しづらい理由を把握することで、サービス改善の参考とする。 非タクシー利用者がバスを利用しない理由を把握することで、新規利用者を獲得するための施策の参考とする。
バスのあり方	問21 公共交通に関する話題の認知度	<ul style="list-style-type: none"> これまで日立市が取り組んできた先進的な取り組みに対する認知度を確認する。
	問22 公共交通の満足度 問23 バスの支え方 問24 バスを維持するための費用負担のあり方 問25 地域で公共交通を維持することへの考え方 問26 地域で公共交通を維持する取組の認知度	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の満足度や公共交通を維持することに対する考え方を把握する。 網形成計画策定時の市民アンケート結果と比較する。

2. バス利用者アンケート 調査方法

- バス利用者に対してアンケートを実施することで、利用者数や収支状況などのデータでは把握できないバス利用者の属性やサービス水準に対する意向・評価等を把握し、今後のサービス改善やバスネットワークの検討の基礎資料とする。

対象路線	<ul style="list-style-type: none">茨城交通(株)の16路線（利用状況及び収支状況を踏まえ選出）<ul style="list-style-type: none">大沼社宅線、海端団地線、バイパス線、旧国道線、旧国道（十王）線、市内国道・海岸線、金沢団地線、塙山団地線、中丸団地線、堂平団地線、成沢団地線、日病・城南台線、高鈴台団地線、東河内線、レジャーランド線、南部地区線上記路線の内、朝夕の工場を経由する便は調査対象外椎名観光バス(株)の5路線<ul style="list-style-type: none">いぶき台団地循環線、ソーラーリゾート線、黒坂線、城の丘団地線、鶉の岬線
実施時期	<ul style="list-style-type: none">2022年7月中旬頃
配布票数	<ul style="list-style-type: none">配布合計1,500票
調査票	<ul style="list-style-type: none">資料3-3のとおり調査票には、WEB上でもアンケートに回答できるよう、QRコードを記載する。
配布方法	<ul style="list-style-type: none">路線バス車内で、バス利用者へ手渡し
回収方法	<ul style="list-style-type: none">郵送による回収
回収目標	<ul style="list-style-type: none">500票（回収率30%）以上
配布物	<ul style="list-style-type: none">調査票及び挨拶文（A3両面1枚）、配布用兼返信用封筒（長3判1枚）

2. バス利用者アンケート 設問内容と狙い

設問	設問	設問の主な狙い
個人属性	問1 アンケート受取日 問2 性別 問3 年齢 問4 居住地 問5 職業 問6 運転状況 問7 携帯電話の所有状況	<ul style="list-style-type: none"> 回答者の個人属性を把握する。 以降の設問結果とのクロス集計により、属性によるバス利用の違いや考え方の違いを分析する。
路線バスの利用	問8 利用区間	<ul style="list-style-type: none"> 利用している区間から利用している路線を推測する。
	問9 鉄道等への乗り継ぎ状況 問10 利用頻度 問11 利用目的 問12 利用時間 問13 往復利用 問14 運賃支払方法	<ul style="list-style-type: none"> バスの利用実態を把握する。 鉄道や高速バスへの乗継状況を把握し、現在のダイヤ設定（鉄道との接続）が実際にニーズに合致しているか分析する。 利用目的や利用時間帯を把握することで、現在のルート設定やダイヤ設定が実際にニーズに合致しているかを分析する。 往復利用の実態と利用時間帯を把握することで、現在のダイヤ設定が実際にニーズに合致しているかを分析する。
	問15 取得するバスの情報 問16 バスの情報の取得方法	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が良く取得している情報とその取得方法を把握することで、今後の情報提供施策をの参考とする
路線バスに対する意見	問17 バスを利用する理由	<ul style="list-style-type: none"> 居住地、年齢、運転状況などのクロス集計により、属性ごとのバスを利用している理由を分析し、サービス改善の参考とする。
	問18 バスを利用しづらい理由 問19 バスサービスの満足度	<ul style="list-style-type: none"> バス利用者が感じる利用しづらい理由を把握する。 基本となるバスサービスごとに満足度を把握する。 満足度と利用しづらい理由を踏まえ、優先度が高い改善点を抽出し、サービス改善の参考とする。
	問21 公共交通に関する話題の認知度	<ul style="list-style-type: none"> これまで日立市が取り組んできた先進的な取り組みに対する認知度を確認する。

3. 乗降カウント 調査方法

- 椎名観光バス(株)が運行する市内全路線の便別停留所別の利用者数を把握することで、今後のダイヤ検討や路線見直しの基礎資料とする。
- なお、茨城交通(株)が運行する市内全路線の利用者乗降情報については、既に把握済みのデータを活用するため、乗降カウント調査は行わない。

対象路線	<ul style="list-style-type: none">• 椎名観光バスが運行する5路線<ul style="list-style-type: none">• いぶき台団地循環線、ソーラーリゾート線、黒坂線、城の丘団地線、鶉の岬線
実施時期	<ul style="list-style-type: none">• 2022年7月中旬
調査方法	<ul style="list-style-type: none">• 対象路線の全便のバス車内に調査員が乗り込み• 各便の各停留所の乗車人数と降車人数を記録